

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					アンケート実施結果、その他指標の結果について整理
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	
1	確かな学力	思考力・判断力・表現力の育成のための言語活動の充実 学力向上につながる授業改善 家庭学習の充実・習慣化による基礎学力の定着	・発表形態の工夫と充実 ・小型ホワイトボードの全クラス配置 ・校内研究授業の実施(年2回) ・教科会の充実 ・少人数授業や教員複数制によるきめ細やかな指導の充実 ・GPS(学習確認プログラム)復習シート活用の特別学習会 ・エスノート(ふりかえり向上手帳)による家庭学習時間の管理	・生徒の間で話し合う活動をよく行っていましたか。 ・自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。 全国学力学習状況調査の結果 ・平日は授業以外に平均何時間勉強していますか。 ・「家で予習・復習をしている」生徒の割合は 47.4% 50.7%	⇒
2	豊かな心	豊かな体験活動の実践 豊かな人間関係づくり(学級・学年・地域とのつながり) 規範意識の醸成	・ボランティア活動 ・「嵯峨の心」の育成 ・3大行事の実施 ・Q-U(楽しい学校生活を送るためのアンケート)の活用 ・地域と連携した取組 ・学習規律の徹底 ・道徳教育の推進 ・自己有用感の獲得	・特色ある教育活動に取り組んでいる。(保護者) ・学校に行くのは楽しいと思いますか。 ・地域の行事に参加していますか。 ・開かれた学校体制をとおしていると思いますか。(保護者) ・学校のきまりを守っていますか。 ・自分にはよいところがあると思う	⇒
3	健やかな体	基本的な生活習慣の確立 体力の向上	・「早寝・早起き・朝ごはん」朝読書の推進 ・食教育の推進 ・愛宕登山競走の取組 ・地域主催のスポーツ大会	・朝食を毎日食べていますか。 ・毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。 ・毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。 ・朝練習参加状況 ・参加者数	⇒
4	独自の取組	ESDの取組 小中一貫教育の充実 情報発信の充実	・研究指定(国立教育政策研究所) ・京都嵯峨学園の設置 ・小中合同の校外活動 ・小中合同研修会、連絡会 ・積極的なホームページの更新 ・嵯峨中だよりの発行	・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。 ・小中の連携した教育活動として取り組んでいると思いますか。(保護者) ・ホームページのアクセス数 ・学校からの情報提供はよく行われていますか。	⇒

学校名(京都市立嵯峨中学校)

自己評価		学校関係者評価	
評価日	2月22日(月)	評価日	2月24日(水)
評価者・組織	学校評価委員会 (運営委員会)	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
全市平均との比較ではおおむね上回っているものの、度数分布比較グラフから、学力の2極化傾向が見られる。ただ、B問題に関して上昇がみられ、グループワーク等の授業改善の成果が徐々にではあるが表れてきていると感じている。家庭学習に関しては、一定の時間、確保している生徒の割合が増えている。今年度、家庭学習の時間を可視化するために導入した振り返り向上手帳の成果が表れたと考えている。ただ、予習、復習の割合が少ないので、塾に依存している生徒の割合も多い。	・若手教員が急増する中、専門性の向上をはかることが喫緊の課題となっている。次年度は、教科会を充実させOJTを推進するなかで授業や定期テストの質の向上を図りたいと考えている。 ・本校では課外学習活動や補充学習に計画的に取り組んでいるが、学力の2極化の解消には至っていない。次年度は、発達障害をはじめとする個の特性による学力の偏りのある生徒への対策と、いわゆる倦怠学傾向の生徒をしっかりと見極めて、個に応じた指導の充実を図りたい。	・授業時間の担保や質の向上を図ってほしい。	・嵯峨教育振興会として、学力向上の取組に必要な資金を用意する。
肯定的な回答率の高さは、学年の縦割りや地域での活動を設定することで、多くの人のなかから自分自身で有用感を持てたことができた成果であると考えている。QU調査やクオラメの分析から、規律ある生活習慣やルールを守る態度の定着が見られる。地域と協働した取組を推進している割に、地域の行事の参加率が低い。部活動との兼ね合いもあるが、積極的な参加を図っていく必要がある。	・不登校に陥っている生徒への対応が不十分であった。特に、経験年数の浅い学級担任は単一的な対応しかできない傾向がある。次年度は、OJTの推進を図るとともに対応に関する細かな指示を行い、個に応じた指導を充実していく。 ・行事や部活動で規範意識の醸成を図るとともに、学級活動や授業規律を徹底していく。 ・多くの地域の行事に関して、生徒に周知されていないことが多い。周知を図るとともに部活動の調整を図り参加を促していく。	・嵯峨中パレードは次年度も継続してほしい。 ・パレード等の行事の時間が多すぎるという意見がある。取組の意義等を周知する必要がある。	・地域もできることがあれば積極的に協力していく。 ・地域でも嵯峨中学校の取組の意義をアピールしていく。
「早寝・早起き・朝ごはん」朝読書の取組を確実に行うことで、遅刻してくる生徒がほとんどいない等、基本的な生活習慣を着実に定着させることができた。グラウンドゴルフ大会の参加希望者が部活動単位で人数を制限しなければならぬほど多かった。また、体育的行事に対する自主練習等も活発に行われていた。	・基本的な生活習慣の確立に関しては一定の成果をあげている。ただ、スマートフォンの適正な活用や薬物乱用防止等の喫緊の課題に対する手立として十分になされていなかった。次年度は、関係機関の各種防止教室等を活用し、計画的な取組をすすめていく。	・グラウンドゴルフ大会は参加者も多く盛況だった。ただ、これ以上、参加者を増やすことができない。 ・各種防止教室を行ってほしい。	・次年度も継続して行っていく。 ・嵯峨学園やPTAも協賛し、保護者啓発を行っていく。
ESDに関しては、1月26日に公開授業及び研究報告会を行った。教科調査官からは、今後の教育の進むべき方向を踏まえ取り組んでいるとの評価をいただいた。小中連携に関しては、実践的な取組が充実してきたように感じるが、京都嵯峨学園としての活動と成果が不明確であるの指摘があった。情報発信については、行事の際にはアクセス数が増加するが、日々の閲覧状況は伸び悩んでいる現状がある。	・ESDカレンダーを活用し、各教育活動で育成すべき能力・資質を明確にして取り組んでいきたい。 ・小中連携に関しては、取組の意義や実践の内容が地域や保護者の方に伝わるように周知活動を工夫していく。 ・ホームページで発信する情報を増やし、毎日の更新を目指す。	・京都嵯峨学園の認知度が低いように思う。 ・中学校での取組が小学生や地域の方に知られていないので、広報のシステムをつくらばいいのではないか。	・取組などに「京都嵯峨学園杯」等の冠をつける。 ・新たな取組を行うよりも現状行っている取組の認知度をあげるためにホームページ等を活用する。

4 総括・次年度の課題

アンケートの結果や学校運営協議会の意見から、本校の地域と連携した教育活動や京都嵯峨学園と称した小中一貫校としての教育活動については概ね高い評価をいただいている。また、検証委員会の委員の方からも、取組の方向性は、次期指導要領の趣旨と同じ方向を向いているので継続して取り組んでほしいとの評価を受けた。ただ、課題として、教職員の異動等で取組の意義や趣旨の理解がなされていないまま取り組む中で、形骸化していく懸念がある。今後の継続・発展のために、OJTの体制づくりを早急に行う必要性を感じる。評価に関する各種アンケートについては、経年変化を追えるように項目を変更せずにおこなっているが、検証委員会においても学校の取組の成果をはかる項目が抜けているとの指摘があった。次年度は、学校評価、学園評価等の各種評価を整理し再構築していきたいと考えている。